

# 第50期 報告書

2024年6月1日 ▶ 2025年5月31日

株主の皆様へ

2025年5月期業績(連結)

2025年5月期セグメント別概況(連結)

2026年5月期業績見通し(連結)

2025年5月期海外業績の概況(連結)

サステナビリティ活動

株主様アンケート結果のご報告

連結財務諸表

株式の状況/会社概要

## Topics

- 新製品紹介 電動ズーム式レーザービームエキスパンダー (BEZM)
- 海外グループ会社のトピックス
- 新製品紹介 ジンバル式大型自動ミラーホルダー (MHDM)
- オプト・メカ・ファクトリー稼働開始



Light Solutions for Life®  
光なら、きっとできる。



©(株)アトックス 2022



我社は光産業を通じ、社会に貢献します。

Light Solutions for Life®

感謝 挑戦 創出

先行きが不透明な時こそ、成長に向けたビジョンに基づく経営戦略を推進してまいります。

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当期の連結業績は、売上高は前年同期比3.3%増の11,580百万円、営業利益は同4.0%減の1,131百万円となりました。世界経済の先行き不透明感が強まる中でも、光技術のニーズを着実に獲得し、安定的に売上高を伸ばしました。人的投資及び設備投資等により費用が増加いたしました。将来の事業拡大を見据えた事業基盤を強化することができました。当社は、「我社は光産業を通じ、社会に貢献します。」という経営理念の下、持続的な企業価値向上を実現する企業体質への「Great Reset」を目指し、「成長戦略」、「ビジネスモデル変革」、「事業継承・中核人材育成」、「社会貢献」を4本柱とする中期経営方針を推進しております。その結果、新規案件の獲得及び専門企業とのコラボレーションの増加、中核人材の育成、サステナビリティ活動の拡大等、一つずつ成果が形になってきております。今後も、「光」が持つ可能性を形にし、地球上の「いのち」や「くらし」を支え続けることで、様々なステークホルダーの皆様のご信頼とご期待にお応えしてまいります。株主の皆様におかれましては、今後とも何卒ご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

シグマ光機株式会社

代表取締役社長 近藤 洋介

## 工場被災からの反動増及び 中国地域向け増加等により増収。

世界経済は、先行き不透明さが強まりました。当社においては、要素部品事業は、バイオ業界向けの需要及び国内エレクトロニクス業界向けの一部の需要がそれぞれ減少いたしました。昨年度の当社工場拠点の被災による一時的な影響からの反動増の他、中国地域向けの需要が増加し堅調に推移した半面、米国地域向けの需要は軟調に推移いたしました。システム製品事業は、期後半からは、緩やかな持ち直し基調で推移いたしました。期前半の在庫調整等の影響を受け、総じて軟調に推移いたしました。

## 人的投資及び 新工場棟の稼働開始等により減益。

在庫の適正化や生産性の向上等による生産コストの削減を推進いたしました。一部の大口案件向け及び一部地域等での中量産のリピート品等の需要が減少したことでボリュームメリットが損なわれ材料費や外注加工費等が高水準で推移した他、持続的な事業拡大に向けた人的投資や新工場棟の稼働開始等により、労務費及び人件費、並びに減価償却費等が増加いたしました。また、支払手数料及び賃借料が増加したこと等により、営業利益は前期比では減少いたしました。

## 2025年5月期業績（連結）

### 売上高 115億80百万円

(前期比 3.3%増)



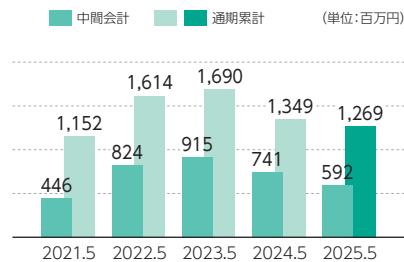
### 営業利益 11億31百万円

(前期比 4.0%減)



### 経常利益 12億69百万円

(前期比 5.9%減)

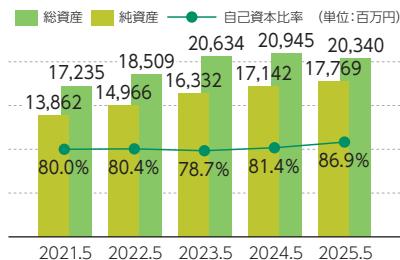


### 親会社株主に帰属する当期 (中間)純利益 9億86百万円

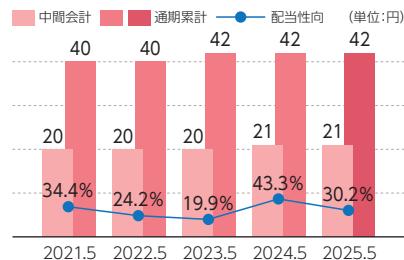
(前期比 43.5%増)



### 総資産・純資産・自己資本比率



### 配当金、配当性向



## 2025年5月期セグメント別概況（連結）

### ▶ 要素部品事業

■ 売上高



**6.1% 増**

(前期比 556百万円増)



### ▶ システム製品事業

■ 売上高



**9.3% 減**

(前期比 189百万円減)



POINT

**中国地域向けの需要回復等により  
総じて堅調。**

光学基本機器製品は、昨年度の当社工場拠点の被災による一時的な影響からの反動増の他、中国地域向けの需要回復を背景に堅調に推移いたしました。自動応用製品は、バイオ業界向けにおける一部の大口顧客向け等が軟調に推移いたしました。光学素子・薄膜製品は、中国地域向けの需要は回復基調で推移したものの、国内エレクトロニクス業界における一部の顧客向けの需要が減少しましたが、当事業セグメントは総じて堅調に推移いたしました。

POINT

**期前半の在庫調整等の影響を受け  
総じて軟調。**

光学システム製品は、電子部品・半導体業界向け及びフラットパネルディスプレイ業界向けでは、期前半では、製造装置・検査装置への組み込み用途の光学ユニット製品及び光学システム製品が大口顧客向けの在庫調整等の影響を受け、軟調な推移となりましたが、期後半からは、緩やかな持ち直し基調で推移いたしました。医療業界向けでは、大口顧客向けが堅調に推移いたしました。当事業セグメントは総じて軟調に推移いたしました。

## 2026年5月期業績見通し（連結）

売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益	配当額 (通期累計)
<b>11,695</b> 百万円	<b>1,220</b> 百万円	<b>1,320</b> 百万円	<b>885</b> 百万円	<b>42</b> 円
(前期比1.0%増)	(前期比7.9%増)	(前期比4.0%増)	(前期比10.2%減)	配当性向(見通し) 33.6%

#### 外部環境

- 世界経済の先行きは不透明な状況が継続
- 主要マーケットの電子部品・半導体業界向けは、期後半に向けて緩やかな回復が期待

#### 売上高（収益要因）

- 中国地域&欧州地域向け持ち直し
- 規格品における価格改定の効果
- 自動応用製品の在庫正常化
- 電子部品・半導体業界向け需要回復

#### 営業利益（費用要因）

- 人的投資の増加
- 設備投資・減価償却費の増加
- 研究開発投資の継続
- 海外主要展示会への出展等

#### 配当額

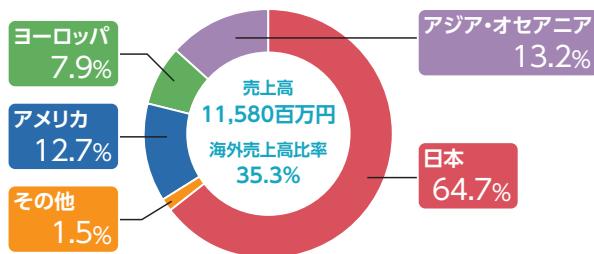
- 配当性向30%を目標とした安定配当の継続

## 2025年5月期海外業績の概況（連結）



### 顧客所在地別概況

#### ■ 海外売上高構成比



#### ■ 顧客所在地別売上高・営業概況

日本	7,497 百万円	パイオ向けが弱含みも、昨年度の当社工場拠点の被災の影響からの反動増等により要素部品事業は堅調。システム製品事業は回復の兆しはあるも軟調に推移。
アメリカ	1,470 百万円	米国経済の不透明感が強まり、産業分野の設備投資意欲が減少した中、新規OEMを獲得するもやや軟調に推移。新社屋に移転し、新しい製造技術や製品を追加。
ヨーロッパ	910 百万円	欧州経済が伸び悩む中、エリアを絞り込み、産業分野の大口案件等を中心に堅調に推移。当社のドイツ孫会社の活用及びオンラインビジネスの強化等により事業拡大を推進。
アジア・オセアニア	1,532 百万円	中国経済の回復基調を中心に総じて堅調に推移。東南アジア地域では、量子研究及び通信向けの調芯装置等の自動応用製品が弱含みで推移。

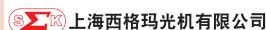
### グループ会社概況



2025年3月期は、米国の政策変化による経済減速等により、厳しい年となりました。引き続き新規OEM獲得と販売機会の拡大、複数の大口顧客との新規取引獲得、既存案件の強化に注力いたしました。また、新社屋への移転が完了し、新しい製造技術や製品機能も追加いたしました。2026年3月期は、期後半からの経済回復が期待される中、OEMのシステム製品及び特注の要素部品を中心とする製品戦略や、ブランド認知度向上及び顧客との信頼構築等のマーケティング活動を継続し、業績拡大に努めてまいります。



2025年3月期は、欧州経済は厳しい状況で推移いたしました。売上高は前期比15.6%増加いたしました。なお欧州経済を牽引するドイツは、経済減速が続いており、2025年も横ばい成長が見込まれております。このような中、米国グループ会社とマーケティングプラットフォーム及びWebサイトを共有することで、オンラインビジネスの拡大に取り組んでまいりました。この結果、Webサイトによる売上高は2023年3月期比で約20%以上の増加を達成いたしました。



2025年3月期の売上高は、前期比44.5%増の43.96百万元となりました。これは、2025年度より開始した光学基本機器製品及び光学素子・薄膜製品の生産品目拡充の効果によるものです。今後も、グループ内のBCP生産体制の構築や新技術の積極的な取り込みを進めるとともに、「品質第一」の姿勢を貫き、お客様のニーズに的確に 대응してまいります。



2025年3月期は、研究機関向けの要素部品が軟調に推移いたしました。OEM顧客向けの要素部品が堅調に推移し、ティアアップ製品（光学定盤、レーザ光源、光検出器等）も底堅く推移いたしました。また、量子分野での認知度向上に向けて、量子関連イベントにも参加いたしました。2026年3月期は、量子及びシリコンフォトニクス分野向けに注力し、政府の研究開発助成金及び投資優遇措置等を活用してまいります。また、産業分野向けでは、システム・インテグレータとの自動化プロジェクトのパートナーシップも進めております。



電動ズーム式レーザービーム  
エキスパンダー (BEZM)

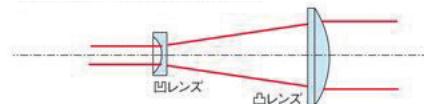
## 可変倍率 (1~8倍) を電動にした 電動ズーム式のレーザービームエキスパンダーです。

設計波長・コーティング波長の範囲を広げて設計しており、幅広い波長帯 (500~570nm、1030~1100nm) に対応しています。

▶**ビームエキスパンダーとは、平行光の直径を拡大する製品です。**  
ビーム径の拡大、ビーム径の安定化、焦点径の調整等、測定精度及び加工品質等の精度向上に貢献します。

### 使用例

- ・光干渉計
- ・レーザー加工



### ビームエキスパンダーラインナップ (一部)



レーザービームエキスパンダー  
(LBE)



固定倍率ハイパワー用ズーム式  
レーザービームエキスパンダー  
(BEHP)



可変倍率ハイパワー用ズーム式  
レーザービームエキスパンダー  
(BEZHP)

### 担当者コメント：開発部 谷口さん

本製品は、従来の手動調整式とは異なり、レンズがレール上で電動で移動する独自の構造を採用しました。これにより、様々な波長のレーザーに対して一つの機構で対応可能となり、切り替え作業の効率化や機構の汎用化を実現しています。高精度な動作を実現するために制御面で多くの調整を要しましたが、その結果、再現性の高い安定した機構が実現でき、他製品への展開も見据えた基盤技術となっています。



MDHD-300

## 大型ミラー (φ150mm以上) に対応したジンバル式自動ミラーホルダーです。 大型ミラーの傾斜調整を自動かつ遠隔操作で行うことができます。

- ミラー挿入面の3本のネジの先端でミラーを固定しており、様々な厚さのミラーに対応可能です。
- あおり方向の軸には粗動調整機構を搭載し、360°の任意の位置でクランプすることができます。
- ミラーサイズが近いメートル規格とインチ規格の両方に対応しており、簡単に切り替え可能です。

### 早わかり

単位：mm



5相ステップ  
モーター



適応素子のサイズは4タイプから選択可能

サイズ	厚さ
φ150、φ152.4	5~28
φ200、φ203.2	20~44
φ250、φ254	40~54
φ300、φ304.8	40~54



下面プレート  
取り付け可能



ケーブル固定用  
部品付属



持ちやすい  
取っ手付き

## 米「OptoSigma Corporation」 オフィス移転（2024年8月）

米国グループ会社OptoSigmaは、製造能力の拡大と業務効率の向上を目的に、カリフォルニア州のサンタアナからコスタメサに拠点を移転しました。クリーンルームの設置、光学設計及び組立、薄膜蒸着等、製造能力の増強により、お客様の高まるニーズに対応していきます。



## 独「OptoSigma Germany GmbH」 孫会社設立（2024年4月）

欧州地域を中心に光学製品を販売する当社グループ会社OptoSigma Europe S.A.S.（本社：フランス）は、ドイツのミュンヘンに子会社を設立しました。新会社と連携して、中央ヨーロッパ地域や北欧地域に密着した営業&サポート活動を強化し、グローバル展開を拡大していきます。



## 2024年10月より、能登工場の新工場棟の稼働を開始しています。

1989年3月に設立した当社の能登工場は、設立以来、当社の光学基本機器製品の主力工場として、金属加工及び組立等を行っています。2023年12月に竣工した新工場棟は、あいにく2024年1月1日の令和6年能登半島地震の影響を受けましたが、各種修繕及び設備の導入等が完了し、2024年10月より正式稼働を開始しています。能登工場の新工場棟の増築及び既存工場棟のリノベーションにより、新たに高品質・高付加価値の光学素子・薄膜製品や光学モジュール・光学システム製品の生産が可能になりました。オプト製品「光学素子・薄膜製品、光学モジュール・光学システム製品」や、メカ製品「光学基本機器製品」をワンストップで対応できる能登工場の「オプト・メカ・ファクトリー化」を更に推し進め、市場とおお客様の需要に迅速に対応できる体制を構築し、中長期における持続可能な成長に向けた価値創造とESG経営の実践を目指していきます。

メカ（既存棟）



▲金属加工  
（光学基本機器製品）



▲組立  
（光学基本機器製品）

オプト（新工場棟）



▲ガラス基板の研磨  
（光学素子製品）



▲光学素子製品の蒸着  
（光学素子・薄膜製品）

オプト（既存棟）



▲クリーンルームでの組立  
（光学システム製品）

## 当社の成長を支える人材及び次世代育成を推進しています

当社では「社員教育を通じて、広く感謝の心を持ち、自己と会社のビジョン・ミッションを理解し、その実現に向けて挑戦・創造する人材を育成します。」という経営基本方針に基づき、階層別研修を実施しています。研修を通じて、各役割への責任に応じた知識習得及びスキルアップを図り、従業員一人ひとりが主体的に考え、行動できる組織作りを目指しています。



▲若手社員向け研修



▲中堅社員向け研修



▲女性社員向け研修

### 光学分野を担う次世代人材育成に貢献

東京大学を中心として発足した大学院教育プログラム「先端レーザー科学教育研究コンソーシアム (CORAL)」に発足当初から参画し、光学分野を担う次世代人材育成に貢献しています。



## 「安全衛生方針」を策定しました

この度、労働災害防止及び従業員の健康維持の促進のため、安全衛生方針を策定いたしました。

### ■安全衛生方針

#### ●基本方針

安全はすべてに優先するとの理念に基づき、安全衛生活動方針を以下のとおり定め、安全と健康を確保するために安全衛生活動の推進に努めます。

#### ●安全衛生活動方針

「ゼロ災害・ゼロ疾病」を目標に、従業員一人ひとりが自主的に安全衛生を意識した行動がとれる、危険ゼロの職場作りを目指します。

安全衛生方針の詳細はこちらをご高覧ください。

<https://www.sigma-koki.com/sustainability/social/employee>



### ■女性管理職比率は着実に上昇

2016年から女性活躍プログラム（働く女性サミット）を実施し、2025年で10年目を迎えました。2021年5月期では0.0%だった女性管理職比率も、2025年5月期には7.9%まで上昇しました。次期（2025年6月1日～）も、引き続き多様性の推進及び働きやすい環境整備、女性社員向け研修等を進めていきます。

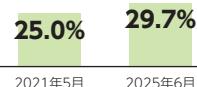
#### ●女性管理職比率 課長相当職 (GL) 以上の推移



#### ●係長相当職 (SGL)



#### ●主任相当職 (TL)



## 東京本社に非化石燃料電力を導入しました

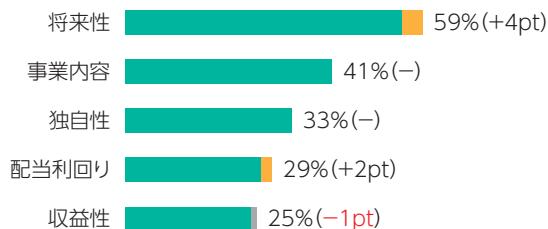
当社は、社会課題である気候変動に対する取り組みの一環として、国内各拠点へ再生可能エネルギーの導入を進めており、2025年4月には東京本社の電力を非化石証書付き電力へと転換しました。今後もCO<sub>2</sub>の排出量の低減に積極的に取り組み、脱炭素社会の実現に貢献していきます。

### 株主様アンケートにご協力いただき、誠にありがとうございました。

第50期中間報告書で実施したアンケートは、当社の全株主様5,760名（2024年11月30日時点）の約3%を超える220名（前年同期比+24名増）の株主様からご回答いただきました。

皆様よりお寄せいただいたご意見・ご要望等は、今後の会社経営及びIR活動に活かしてまいります。

#### ● 当社株式を購入された理由 複数選択



※括弧内は、対第49期中間比

#### ● 充実を期待するIR活動 複数選択



※括弧内は、対第49期中間比

#### IR担当者からのコメント

今回は、「将来性」とご回答いただいた方々の比率が増加いたしました。成長産業向けの事業拡大等、ご期待にお応えしてまいります。一方で、「収益性」とのご回答者の比率は微減となりましたが、引き続き収益性向上に努めるとともに、IR活動等を通じた分かりやすい成長ストーリーのご案内を行ってまいります。

#### IR担当者からのコメント

今回は、「株主通信（報告書）」が最も充実を期待するIR活動となりました。株主通信を通じた情報のご提供及び対話の充実等を更に強化してまいります。その中で、「工場見学等の企画」の比率は減少し、「会社説明会」の比率は微増いたしました。株主様が期待するIRイベントの企画等の参考とさせていただきます。

### 株主様からのご質問・ご意見

Q どの製品を、どの顧客に販売しているのか教えてください。

A 当社は、光技術に関わる様々なお客様向けに光学製品を提供させていただいており、特定のお客様向け及び特定製品のいずれにおいても連結売上高に占める割合が10%を超えない等、非常に多くの業界・お客様とお取り引きしております。その中でも、特に国内のエレクトロニクス業界向けを中心とした検査装置・加工装置への組み込み用途としての光学素子・薄膜製品（レンズ・ミラー等）及び光学システム製品（対物レンズ等）が高いご評価をいただいております。

Q 医療業界向けの成長に期待しております。

A 応援のお言葉をいただき誠にありがとうございます。近年、医療業界からも、非接触・非侵襲での診断及び生体計測等、診断、検査、測定、観察等の用途における光技術のニーズが高まっております。当社は、レーザー用光学機器・装置等の光技術を提供する「光ソリューション・カンパニー」として蓄積してきた長年の実績及びノウハウ等を活用し、医療機器専門企業等と協力しながら、多様化及び専門化が進む医療業界向けのニーズにお応えしてまいります。

## 連結財務諸表

### 連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	当 期	前 期
	2025年5月31日現在	2024年5月31日現在
(資産の部)		
流動資産	11,943	12,534
固定資産	8,396	8,410
有形固定資産	4,746	4,755
無形固定資産	70	62
投資その他の資産	3,579	3,592
資産合計	20,340	20,945
(負債の部)		
流動負債	1,756	2,769
固定負債	814	1,033
負債合計	2,571	3,802
(純資産の部)		
株主資本	16,495	15,807
その他の包括利益累計額	1,172	1,240
非支配株主持分	101	94
純資産合計	17,769	17,142
負債・純資産合計	20,340	20,945

### 連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	当 期	前 期
	2024年6月 1日から 2025年5月31日まで	2023年6月 1日から 2024年5月31日まで
売上高	11,580	11,213
売上原価	7,254	6,928
売上総利益	4,325	4,284
販売費及び一般管理費	3,194	3,106
営業利益	1,131	1,178
経常利益	1,269	1,349
親会社株主に帰属する当期純利益	986	687

### 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	当 期	前 期
	2024年6月 1日から 2025年5月31日まで	2023年6月 1日から 2024年5月31日まで
営業活動による キャッシュ・フロー	379	1,410
投資活動による キャッシュ・フロー	△418	△1,458
財務活動による キャッシュ・フロー	△601	△618
現金及び現金同等物に 係る換算差額	△28	239
現金及び現金同等物の 増減額 (△は減少)	△667	△426
現金及び現金同等物の 期首残高	3,904	4,330
現金及び現金同等物の 期末残高	3,284	3,904

## 》 解説ポイント

#### ● 連結貸借対照表

##### <資産の変動>

流動資産は、売掛金が増加しましたが、現金及び預金、有価証券がそれぞれ減少したこと等により前期末比で4.7%減少しました。固定資産は、米子会社の新事務所及び工場の完成（前期末の建設仮勘定からの振替額等）等により建物及び構築物が増加しましたが、固定資産の減価償却による費用化が進んだことにより、前期末比で0.2%減少しました。この結果、総資産は、前期末比で2.9%減少しました。

##### <負債の変動>

流動負債は、未払法人税等が増加しましたが、当社において協力会社等への支払方法を見直したことにより電子記録債務、支払手形がそれぞれ減少した他、令和6年能登半島地震からの復旧の進捗により前期末に計上した災害損失引当金が減少したこと等により、前期末比で36.6%減少いたしました。固定負債は、長期借入金、退職給付に係る負債がそれぞれ減少したこと等により、前期末比で21.2%減少しました。この結果、負債合計は、前期末比で32.4%減少しました。

##### <純資産の変動>

純資産は、前期末比で3.7%増加し、自己資本比率は、86.9%となりました。

#### ● 連結キャッシュ・フロー計算書

当期の現金及び現金同等物は、前期末比で6億6千7百万円の減少となりました。

営業CFは、税金等調整前当期純利益、資金流出を伴わない減価償却費の計上でそれぞれ増加し、仕入債務の減少、災害損失引当金の減少、売上債権の増加、災害による損失（令和6年能登半島地震による能登工場被害の復旧修繕費）の支払等で減少したこと等により資金を3億7千9百万円獲得しました。

投資CFは、前期に支出した能登工場新棟建設に対する自治体からの補助金の受取がありましたが、有形・無形固定資産の取得による支出で減少したこと等により資金を4億1千8百万円使用しました。

財務CFは、配当金の支払額、長期借入金の返済による支出等でそれぞれ減少したこと等により、使用した資金は6億1百万円となりました。

詳細な情報はこちらをご高覧ください。<https://www.sigma-koki.com/ir/document/>



## 株式の状況／会社概要

### 株式の状況 (2025年5月31日現在)

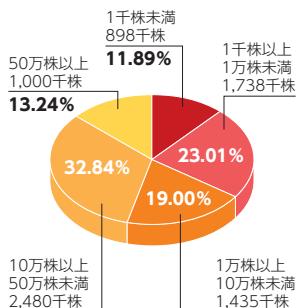
発行可能株式総数	32,000,000株
発行済株式総数	7,552,628株
株主数	5,820名 (前期末比137名増)

#### 主要株主

株主名	所有株数(千株)	持株比率(%)
浜松ホトニクス株式会社	1,000	14.11
シグマ光機取引先持株会	492	6.95
光通信株式会社	338	4.78
株式会社ツシマ	228	3.23
シグマ光機従業員持株会	203	2.87
富国生命保険相互会社	200	2.82
株式会社埼玉りそな銀行	178	2.51
株式会社サンライズクリエイト	148	2.09
杉山大樹	110	1.56
株式会社三井住友銀行	110	1.55

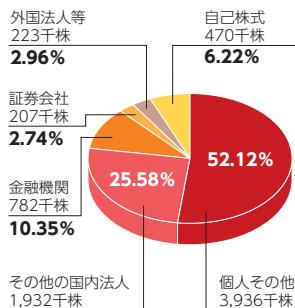
- (注) 1. 所有株数は、千株未満を切り捨てて表示しております。  
 2. 持株比率は、小数点第3位を切り捨てて表示しております。  
 3. 持株比率は、自己株式(470,450株)を控除して計算しております。

#### 所有株数別株式分布状況



- (注) 1. 所有株数は、千株未満を切り捨てて表示しております。  
 2. 持株比率は、小数点第3位を切り捨てて表示しております。  
 3. 自己株式(470,450株)を含んでおります。

#### 所有者別株式分布状況



### 会社概要 (2025年8月27日現在)

<b>社名</b>	シグマ光機株式会社
<b>本社</b>	埼玉県日高市下高萩新田17番地2
<b>設立</b>	1977年(昭和52年)4月
<b>資本金</b>	26億2,334万円
<b>従業員数</b>	384名(2025年5月31日現在)
<b>役員</b>	代表取締役社長 近藤 洋介 取締役 石井 康之 取締役 多幡 能徳 取締役(社外) 小澤 勉 取締役(社外) 野崎 誠 取締役(社外) 松尾 祐美子 取締役(社外) セットジイオン 常勤監査役(社外) 上野 健司 監査役(社外) 南雲 幸一 監査役(社外) 熊崎 美杉

(注) 社外取締役 野崎誠氏、松尾祐美子氏及びセットジイオン氏、社外監査役 上野健司氏及び熊崎美杉氏の5氏は独立役員であります。

#### ❖ 主な事業所

- 本社・日高工場 ● 東京本社 ● 大阪支店
- 九州営業所 ● 能登工場 ● 技術センター

#### ❖ 関連会社

- OptoSigma Corporation
- OptoSigma Europe S.A.S.
- OptoSigma Southeast Asia Pte. Ltd.
- OptoSigma Germany GmbH
- 上海西格瑪光机有限公司
- LMS株式会社
- タックコート株式会社

#### 当社の報告書は、「UDフォント」を採用しております

視認性、判読性に優れたユニバーサルデザイン(UD)書体を使用し、弱視・老眼等視力の低下にお悩みの方にも読みやすいよう配慮をしております。

#### 文字使用例

(従来)

(UDフォント)

S36 S36

## 株主メモ

事業年度 毎年6月1日から翌年5月31日まで

定時株主総会 毎年8月開催

基準日 定時株主総会 毎年5月31日

期末配当金 毎年5月31日

中間配当を行う場合は、毎年11月30日

単元株式数 100株

公告方法 電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

電子公告URL <https://www.sigma-koki.com/>

### 【株式に関する住所変更等のお届出及びご照会について】

証券会社の口座をご利用の場合は、三井住友信託銀行株式会社ではお手続きができませんので、取引証券会社へご照会ください。証券会社の口座のご利用がない株主様は、下記の【特別口座について】をご確認ください。

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
三井住友信託銀行株式会社

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
事務取扱場所 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(郵便物送付先) 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先)  **0120-782-031** (通話料無料)

(インターネット ホームページURL)

<https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency/>

### 【特別口座について】

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、みずほ信託銀行株式会社に口座(特別口座といます)を開設しております。左記株主名簿管理人とはご照会先及び住所変更等のお届出先が異なりますのでご注意ください。

### 〈特別口座に関するご照会先〉

(特別口座 口座管理機関) みずほ信託銀行株式会社

(郵便物送付先) 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
みずほ信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先)  **0120-288-324** (通話料無料)

株主の皆様の声をお聞かせください



当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

右記URLにアクセスいただき、  
アクセスキー入力後に表示される  
アンケートサイトにてご回答ください。

<https://koekiku.jp>

アクセスキー 7713JytW



スマートフォンから  
カメラ機能でQRコードを読み取り

QRコードは株式会社デンソーウェアの登録商標です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝を進呈させていただきます。

本アンケートは、株式会社プロネクサスの提供する「コエキク」サービスにより実施いたします。  
アンケートのお問い合わせ「コエキク事務局」  [koekiku@pronexus.co.jp](mailto:koekiku@pronexus.co.jp)



東京本社 東京都墨田区緑1-19-9  
TEL.03-5638-8221 (総務部)

